

いしづち

愛媛労災病院広報紙第10巻第4号

（通巻第62号）

2012年10月5日発行

発行人：病院長 内藤克輔

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
 2. 安全かつ良質な医療の提供
 3. 勤労者医療の推進



少し怖いお酒の話

2

北6病棟紹介

3

感染対策活動

3

攻めの守り

4

地域医療連携室から

4

市民公開講座予定表

4

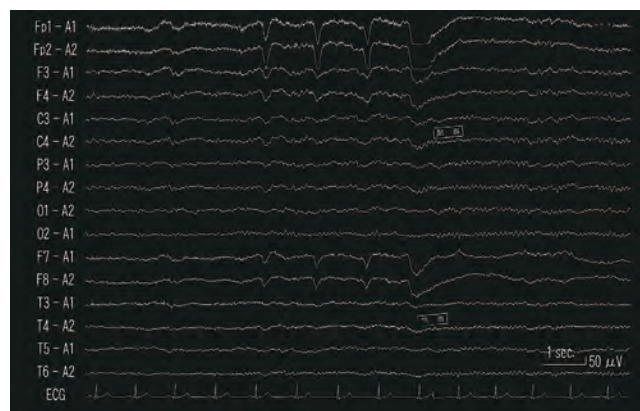
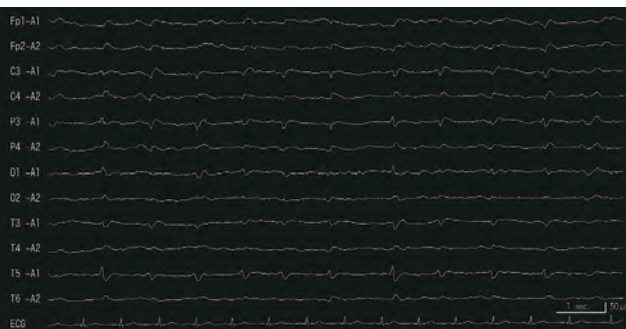
少し怖いお酒の話

精神科部長 稲見 康 司

秋祭りのシーズンです。周辺に美味しい地酒の造り酒屋が多いということもあるのですが、この辺りの祭りといえば酒がつきもので、よそから来たドクターによれば、祭りの間は街が酒臭いそうです。酒は適量ならば百薬の長ですが、少し間違ふと怖いというのが今回のお話です。

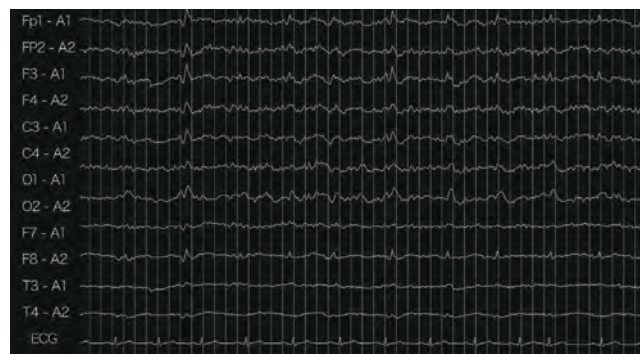
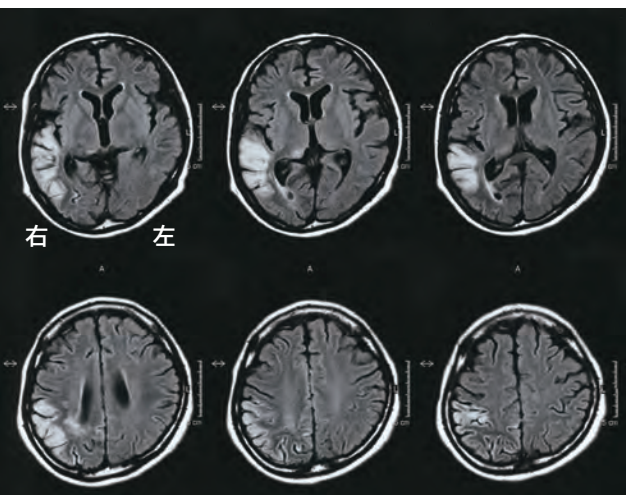
まずは29歳の女性。17歳頃から飲酒を始め、やがて習慣性になり、3年前頃からは定職に就けずに、25度の麦焼酎を1日に2-3合程度、毎日昼間から飲んでいました。何故かは不明ですが、2日ばかり飲酒を中断したところ、深夜に自宅廊下でけいれ

ん発作を起こして倒れているのを家族に発見され、救急搬送となりました。発作型は右顔面に始まり、右上下肢、ついで左半身にも波及する間代性けいれんであり、全身性の強直発作で一旦は終了するが、すぐに次の発作が起こるといったものでした。外見上の発作が治まってから3日目の脳波検査では、左大脳半球に約1秒周期のPLEDsが出現していましたが、約1カ月後にはほぼ正常化していました。



次は28歳の女性で上の女性の実妹です。もともとは医療関係の職に就いていましたが、姉と一緒に飲酒を続けているうちに、勤務中に手の震えがみられるようになり離職しました。その後は自宅で、姉とその男友達との3人で、25度の焼酎1升を毎日空にするという飲みっぷりでしたが、家族によると姉の発作の直後に同じ状態となり、別の病院に救急搬送されたとのこと。MRI検査で右側頭部のほぼ全域にダメージが認められ、視放線もかなり傷害さ

れていることから、左半側の視野欠損があり、それは数年経っても後遺障害として残っているようです。MRIで認められた所見は、他のアルコールと関連した脳障害の知見からは、神経線維の微小血管障害に伴う髄鞘崩壊であろうと推測しています。



58歳の男性にも同じような複雑部分発作の重積が見られました。脳波所見も女性例と同じでした。急性期を脱した後も、なおぼんやりとして見当識障害や幻覚が認められ、暫くの間精神科専門病院に入院していましたが、その後断酒して元の職場に復帰しているのを、たまたま地域産業保健センターの仕事での巡回の際に確認しました。

北6病棟紹介

北6病棟 泉 敦子

瀬戸内海を一望できる北館の6階にある私達の病棟は、外科・形成外科・歯科口腔外科43床を有する急性期外科系混合病棟です。外科では、術後の痛みの軽減や早期回復のため、腹腔鏡手術を積極的に取り入れたり、腹部大動脈瘤のステント留置術や下肢静脈瘤レーザー手術(日帰り可能)などの治療を行っています。地域と繋がった病院目指して、医療連携パスの作成にも取り組んでいます。形成外科は、熱傷の治療をはじめ、痣や脂肪腫、眼瞼下垂、内反症などを治療しています。難治性の褥創の治療に持続吸引閉鎖療法(BACシステム)も取り入れ好成績を得ています。歯科口腔外科は、紹介率も高く市内の歯科とも連携して、24時間体制で口腔周囲の外傷治療や全身麻酔下での難抜歯術を行っています。

看護師は23名で、緩和ケアの認定看護師研修終了者が今年度から活動しています。平均在院日数が15日前後の急性期病棟で、「迅速・正確」かつ「明るく・さわやかに」をモットーに、チーム医療の充実に取り組んでいます。患者の高齢化とともに看護も複雑化していますが、安全で安心できる質の高い看護ケアが提供できるように、これからも頑張ります。



ICTにおける感染制御専門薬剤師としての感染対策活動

薬剤師 小野 雅文

感染制御専門薬剤師認定試験および認定審査に合格し、今年4月より感染制御専門薬剤師になることができました。

これまでもICT(インфекションコントロールチーム)のメンバーとして、院内感染対策、特に「抗菌薬の適正使用」ということに力を入れてきましたが、専門薬剤師となった今年度からは更に気持ちを引き締めて、抗菌薬・消毒薬および感染症全般に関する知識をより深めながら、院内の感染対策活動を継続していかねばならないと感じております。

当院のICTは、頼れる男前な性格の感染対策委員長の宮原妙子健診部部長(素敵な女性です?)を中心に、頭の回転が速く、感染症の知識豊富な泌尿器科田島基史医師(今年度ICD:インフェクションコントロールドクター取得予定)、感染管理に専従し、院内感染対策活動全般を支えてくれる菅原麻貴感染管理認定看護師(いつも素早くて確かな対応で、とっても頼りにしています)、高い技術力で微生物検査を支えてくれる細菌検査担当の吉岡瑞穂臨床検査技師(グラム染色から起炎菌を推定する高い技術・能力により、抗菌薬の適正使用は支えられています)、そして私の5名で、院内感染防止の実

働部隊として活動しております。

また、今年度からは近隣の医療機関と共に「感染防止対策加算1」「感染防止対策地域連携加算」(詳しくは厚生労働省HPを参照してください)の算定を開始しており、各施設の感染対策活動を医療機関同士が客観的に評価したり、他の医療機関での感染対策活動について情報を得る機会が増え、医療機関同士の連携により地域全体の感染対策活動がレベルアップしていく事と思います。さらに、この連携を通じて他施設で感染対策に従事している薬剤師の方と情報交換する良い機会が得られるものと期待しております。

これからも、院内・院外での感染対策活動に少しでも貢献できるよう、日々精進していきたいと考えております。



攻めの守り

千葉 晃 義

守りと言えば、自陣に引いて守備に人数をかけてリスクを背負わない戦い方のイメージがある。しかし、攻めの守りも存在する。サッカーでいえば相手のパスコースを読み積極的にボールを奪いに行くこと、これは攻めの守りと言える。野球でいえばどうであろう？先日行われた中四国大会で究極の攻めの守りを目の当たりにした。

愛媛労災対中国労災戦、両エースが素晴らしい投球をして1点を争う投手戦。4回に外野の前に落ちる不運なヒットとタイムリーヒットにより1点を先取される。6回の守り、1アウトからフォアボールとヒットでランナー2、3塁のピンチ。相手ピッチャーの調子を考えると1点もやれない場面である。エラー、

ヒットはもちろんスクイズ、外野フライ、右方向への内野ゴロでも敗戦を意味する1点が入ってしまう。相手のホーム、呉二河球場をしぶれるような緊張感が支配する。滝田が投じた三球目、良い当たりのライナーが右中間を抜けていく、あ～ダメだ、やっぱり負けかと思った瞬間、ライト八木先生が猛然とスライディングして跳びつき赤いグラブにボールが吸い込まれた。プロ野球さながらの超ファインプレイである。しかもタッチアップした三塁ランナーを見事な中継プレイでアウトにしたのである。抜けていればおそらくランニングホームランになり3点が入る場面が出たビッグプレイ。これこそ、リスクを背負って攻めの守りをしたからこそ1点もやらずにすんだ究極の攻めの守りである。株価の下落、円高、景気の低迷、混迷する日本。今だからこそリスクを背負って攻める気持ちが大切なのではと考える今日です。八木先生のプレイに勇気をもらいました。

地域医療連携室から

当院では、長期入院が困難な患者様が、短期間の入院(二泊三日糖尿病教育入院パス)でも充実した糖尿病の指導を受けることができるよう、糖尿病教育入院パスを活用しています。また、15日間の入院が

可能な患者様に対し、専門医が血糖コントロールや合併症の精密検査を行う糖尿病教育入院(15日間パス)も対応しています。入院が可能な患者様、当院の糖尿病教育入院パスをご活用下さい。

二泊三日糖尿病教育入院パス

日付	入院当日/水曜日	2日目/木曜日	3日目/金曜日
検査		起床時体重測定	起床時体重測定
検査	血糖測定があります (入院後から毎食前と寝る前)	血糖測定があります (毎食前後と寝る前7回)	血糖測定があります (朝食前と昼食前2回)
治療	今までの治療継続	今までの治療継続	今までの治療継続
処置		足の手入れ	
食事	食事療法	食事療法	食事療法
リハビリ	入院時説明、DVD学習	運動療法開始、リハビリ室に行きます	運動療法リハビリ室に行きます
説明・指導	薬剤指導 (お薬治療をしている方)	栄養指導	退院時説明
糖尿病教室	運動について	糖尿病について、足の手入れについて	食事について

愛媛労災病院 市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階・大会議室 時間：15:00～16:00

回数	開催年月日	演 題	講 師
第109回	2012.10.18 (木)	メタボリック症候群と虚血性心臓病	佐藤 晃・循環器内科部長
第110回	2012.11.15 (木)	感染から身を守るためのポイント	菅原 麻貴・感染認定看護師
第111回	2012.12.20 (木)	睡眠障害と生活習慣病	稲見 康司・精神科部長

(注) 開催日時及び開催場所につきましては、変更になることがあります。 (注) 入場は無料です。

！ 広報紙編集メンバー 委員長：稲見精神科部長 委員：友澤副院長、医局長(中井内科部長)、看護副部長、師長1名(外来田中)、師長補佐1名(北7和田)、小野薬剤師、小川作業療法士、正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、鈴木管理栄養士、総務課長、庶務係長、地域医療連携室員